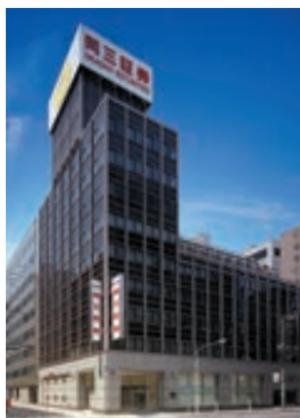


会社概要・株式情報

会社概要 (平成25年11月22日現在)

商号 株式会社岡三証券グループ
(OKASAN SECURITIES GROUP INC.)
所在地 東京都中央区日本橋一丁目17番6号
創業 大正12年4月4日
設立 昭和19年8月25日
資本金 18,589,682,639円
従業員数 3,235名 (第76期第2四半期連結ベース)
上場金融商品取引所 東京・名古屋証券取引所



本社ビル

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 750,000,000株
発行済株式の総数 208,214,969株
株主数 23,678名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	9,766	4.89
三井住友信託銀行株式会社	9,726	4.87
農林中央金庫	9,700	4.85
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,822	2.91
大同生命保険株式会社	5,500	2.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,322	2.66
有限会社藤精	5,266	2.63
株式会社りそな銀行	4,937	2.47
株式会社みずほ銀行	4,925	2.46
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口	4,924	2.46

※当社は、自己株式8,330,601株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

所有者別持株比率



株価および出来高の推移(東証・月間)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月中旬に開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数 1,000株
公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載) <http://www.okasan.jp>
 やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、
 日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031 (平日9:00~17:00/土・日・休日を除く)
(URL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

証券会社の口座をご利用の株主さまは、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、株主さまの口座のある証券会社宛にお問い合わせください。

証券会社の口座をご利用されていない(特別口座に株式のある)株主さまは、左記電話照会先までご連絡ください。

配当金のお受取り方法について

配当金のお受取り方法につきましては、便利な指定口座への口座振込による方法のほか、証券会社のお取引口座において株式数に応じてお受取りいただく方法、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口でお受取りいただく方法がご利用いただけます。

お手続きにつきましては、株主さまの口座のある証券会社または三井住友信託銀行(特別口座に株式のある株主さま)へお問い合わせください。

株主のみなさまへ

第76期中間のご報告 (平成25年4月1日~平成25年9月30日)

株式会社 岡三証券グループ

ごあいさつ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

第76期中間のご報告をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は本年4月に創業90周年を迎えました。折しもわが国の株式市場は政府の経済政策や日銀の積極的な金融緩和を背景に4月、5月と活況が続き、日経平均株価が5年4ヵ月ぶりに1万5千円台を回復するなど、良い形で新年度のスタートを切ることができました。

さて、当社は創業90周年を迎えるにあたり、様々な施策を実施してまいりました。当社創業の地である三重県津市では、岡三証券津支店が新店舗に移転し、10月より営業を開始しております。新店舗内には室町本店と支店をつなぐ大型モニターや、世界最高峰の解像度を誇るデジタルドームシアターを備えており、これらを活用して新しい形の投資サービスをお客さまに提供してまいりたいと考えております。一方、東京の室町本店では岡三証券のトレーディングルームを移転し、本社部門の集約を進めるとともに、情報配信スタジオを新しく開設するなど、世界の最新情報を全店へ配信する体制を整え、商品創造力・情報発信力の一層の強化を図りました。

今後も当社の経営理念である「すべてはお客さまのために」を役員一丸となってさらに進め、確固たる経営基盤の構築を図り、さらなる企業価値の向上に努めてまいりますのでございます。

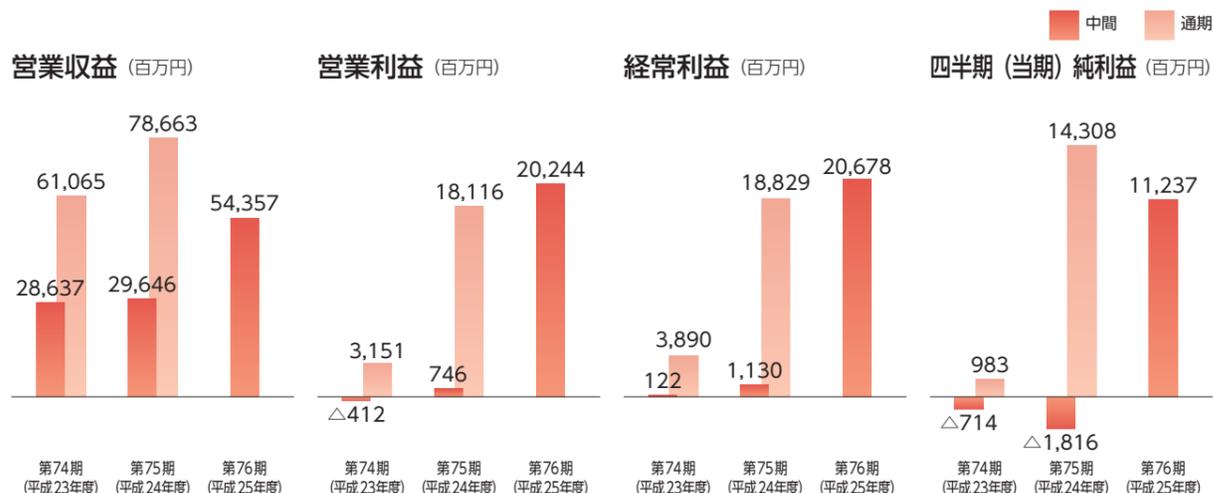
株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成25年11月



取締役会長 加藤 精一 取締役社長 加藤 哲夫

業績ハイライト (連結)



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

科 目	(単位：百万円)		科 目	(単位：百万円)	
	前年度第2四半期 (平成24年9月30日)	当年度第2四半期 (平成25年9月30日)		前年度第2四半期 (平成24年9月30日)	当年度第2四半期 (平成25年9月30日)
<資産の部>					
流動資産	528,214	650,515	流動負債	443,719	543,350
現金・預金	38,061	46,777	トレーディング商品	156,680	182,827
預託金	42,585	71,802	信用取引負債	16,764	20,143
トレーディング商品	226,537	249,587	有価証券担保借入金	80,557	62,822
約定見返勘定	168	19,451	預り金	19,674	42,451
信用取引資産	38,459	65,133	受入保証金	23,495	41,349
有価証券担保貸付金	170,584	184,562	短期借入金	141,361	178,615
その他の流動資産	11,817	13,201	その他の流動負債	5,184	15,140
固定資産	50,543	67,158	固定負債	24,282	28,177
有形固定資産	16,476	17,584	特別法上の準備金	1,446	1,715
無形固定資産	7,966	8,797	負債合計	469,448	573,243
投資その他の資産	26,099	40,777	<純資産の部>		
資産合計	578,758	717,674	株主資本	89,583	113,005
			資本金	18,589	18,589
			資本剰余金	12,912	12,913
			利益剰余金	61,698	85,182
			自己株式	△ 3,616	△ 3,679
			その他の包括利益累計額	637	8,401
			少数株主持分	19,088	23,023
			純資産合計	109,309	144,430
			負債・純資産合計	578,758	717,674

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

科 目	(単位：百万円)	
	前年度第2四半期累計 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当年度第2四半期累計 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業収益	29,646	54,357
①受入手数料	17,477	37,698
②トレーディング損益	10,638	14,683
金融収益	1,022	1,569
その他の営業収益	507	407
金融費用	779	737
純営業収益	28,867	53,620
③販売費・一般管理費	28,120	33,375
営業利益	746	20,244
営業外収益	481	511
営業外費用	97	78
経常利益	1,130	20,678
特別利益	595	29
特別損失	2,422	477
税金等調整前四半期純利益	△ 695	20,230
法人税、住民税及び事業税	831	7,885
法人税等調整額	40	△ 93
法人税等合計	871	7,791
少数株主損益調整前四半期純利益	△ 1,567	12,439
少数株主利益	249	1,201
四半期純利益	△ 1,816	11,237

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

当第2四半期連結累計期間における営業収益は、前年同期比83.4%増の543億57百万円となりました。

①受入手数料

受入手数料は前年同期比115.7%増の376億98百万円となりました。国内株式市況の回復を受け株式委託手数料が増加したほか、円安株高による投資環境の好転を背景に投資信託関連収益が増加しました。

②トレーディング損益

トレーディング損益は前年同期比38.0%増の146億83百万円となりました。主に国内株式の売買収益や、米国株式の国内店頭取引拡大が寄与しました。

③販売費・一般管理費

販売費・一般管理費は、前年同期比18.7%増の333億75百万円となりました。業績回復に伴い、主に人件費や取引関係費が増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比18.3倍の206億78百万円、四半期純利益は112億37百万円（前年同期は18億16百万円の損失）となりました。

OKASAN TOPICS

岡 三 ト ピ ッ ク ス

創業90周年を機にサービスをさらに向上

平成25年4月に創業90周年を迎え、当社グループではこれまで進めてきたサービスレベル向上のための取り組みを具現化させました。

「岡三証券グループ津ビル」完成

平成25年10月、創業の地、三重県津市に岡三証券グループ津ビルがオープンしました。1階から3階には岡三証券津支店が移転入居し、新生・津支店としてより一層質の高いサービスを提供できる中核営業拠点となりました。また、4階にはデジタルドームシアター「神楽洞夢」を備え、平成26年4月以降を目的に主に地域の小学生向けの学習投影（天文学習）を開始する予定です。



「室町トレーディングルーム」開設

平成25年9月、岡三証券室町本店（東京都中央区日本橋室町）に、室町トレーディングルームを開設しました。世界の市場を一望できるトレーディングルームを拠点に、注文執行機能を強化するとともに、運用力、商品力の集積基地としてまいります。



新たな情報配信サービスを開始

平成25年10月、岡三証券では、室町トレーディングルームの一角に「日本橋室町スタジオ」を開設し、営業拠点等に向けた投資情報番組のライブ配信を開始しました。



また、それに合わせ、室町本店が所在する商業ビル（COREDO 室町）の1階に「室町インフォメーション」を開設しました。こちらは、スタジオから配信される投資情報や株式市況、岡三証券からのお知らせなどをご覧いただける情報コーナーです。



10月現在、スタジオからの番組は、室町インフォメーションのほか、大手町支店および津支店の店頭で配信されています。今後、配信対象を全国の営業拠点に順次拡充してまいります。

海外アライアンスの拡充

フィリピンRCBC証券と業務提携

平成25年5月、岡三証券はフィリピンの大手銀行リサール商業銀行傘下のRCBC証券と業務提携に関する覚書を締結しました。



この提携により、アジア各地域の有力証券会社との提携は、平成18年のBIDV証券（ベトナム）、平成22年の中国銀河証券（中国）、平成23年のOSK（現・RHB、マレーシア）、平成24年の大信証券（韓国）および元富證券（台湾）に続き、6社目となりました。一連のアライアンスにより、アジアマーケットでの注文執行体制を強化し、現地における質の高い投資情報をお届けする態勢も整えてまいりました。今後もアジア関連ビジネスを推進してまいります。